

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。旧年中も皆様にお支え頂きお陰様でまた新たな1年を迎えることができました。今年も子どもたちにとって実り多き一年にできるよう職員一同、努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願い致します。

日本は世界的にもトップクラスの長寿国となっており、ある海外の研究では「2007年に日本で生まれた子どもの半数は107歳より長く生きる」と推計されています。(首相官邸:人生100年時代構想会議中間報告より)人生100年時代に突入すると、従来のような教育・仕事・老後という3ステージの単線型の人生ではなく、多様な道筋を持ったマルチステージの人生を送るようになっていわれています。

2021年4月に施行された改正高年齢者雇用安定法では、65歳までの雇用確保を義務としたうえで65歳から70歳までの就業機会確保の努力義務が新設されました。人生100年時代の到来を考えると、長い期間現役で働く方も増え、将来的には70歳定年制の義務化に繋がっていくだろうと予想されています。

これまでの歴史を振り返っても類を見ない水準の人口減少が続くこの日本の現実や大きく変化する社会構造を目のあたりにすると、3児の親としても漠然とした不安もあります。だからこそ子どもたちが今、「何を」「どのように」学ぶかがとても大事だとあらためて身を引き締める思いになります。

20年程前から当園に描画・造形活動の職員指導に来てくださっている岡山大学大学院の大橋功先生は子どもたちへのアート・美術教育の重要性を丁寧に教えてくださいました。3~4歳児は現実とファンタジーの間を行ったり来たりしながら遊びます。砂場でお皿に砂をたっぷり盛る子どもたち。「ほら、カレーができたよ、食べて食べて」と子どもたちから差し出されて「じゃあ、いただきまー

す」と、私がおもちゃのスプーンを使って本当に口に運んで食べようとする、いくら子どもたちでも「だめ!だめ!本当のカレーじゃないんだから・・・」と制してきます。リアルを感じつつファンタジーの世界で作りたいものを作ったり、なりたいものになったり、行きたいところへ行ったりすることができるのです。

5歳頃からはそれが架空の話であることをしっかりわかりつつ、遊びとしてお話の世界に身を投じ、演じて楽しむようになります。それは単なるファンタジーではなく、子どもなりの思いや願いを実現する問題解決のための創造的なプロセスでもあるのです。

身近な生活の中で体験すること、見聞きして知っていること、興味を持っていることなどから発想しながらも、自由に楽しい想像の世界でロールプレイしながら実現すべき価値に向かい問題解決していくのです。

「この見本通りに作るんだよ」と、大人のイメージを子どもを使って描かせる・作らせるだけの活動に終始してしまうと、そういった想像を楽しむことができません。見本通りに上手に描けない・作れないことに自信をなくして美術嫌いになる人が多いように感じますが、本来美術は見本などあるはずもなく、「自分らしく表現することの楽しさを味わう(自己肯定感、自分らしさ)」、「既存にない発想を楽しむ(想像し、創造する)」ものであるべきです。

これからの時代を考えると、まさに現実の中から想像しながら新たな「より良い社会」を創造していく力が必要です。それは本来、3~5歳児の発達の中で十分に楽しみ、味わっている世界なのです。それを「もっとリアルに表現するんだよ」「そうじゃないでしょ」と大人の価値観を押し付けすぎてしまうことが考えることの楽しさを奪うことにもなりかねません。

性急になりすぎずに子ども時代を存分に味わう。それが、どんな未来も肯定的に受け止め、現実の中から想像して、創造する力強さを持った子どもたちに育つために必要なことではないかと考えています。